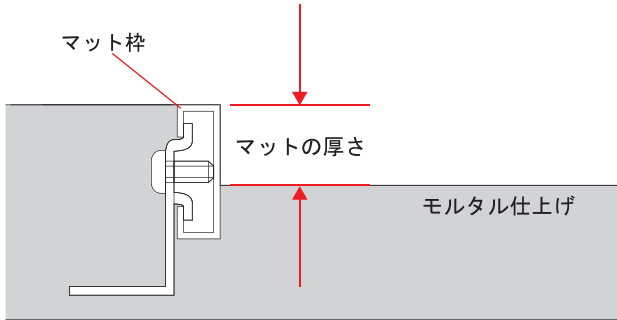


樹脂マット (玄関用) の施工とメンテナンス

■厚みの確認

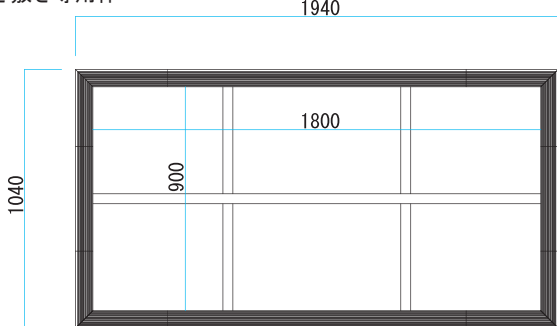
- 落とし込みで設置する場合は、設置場所の落とし込み深さを確認して深さにあった厚みのマットをご指定下さい。
- ステンレス枠を設置の場合はマットの厚み分の深さにモルタルを仕上げして下さい。また開き戸の場合、扉にマットが当たらないか確認して下さい。
- モルタルの仕上げで排水用の勾配が大きい場合は、マットの歪みや振動の原因になります。別途勾配用の補強をお願いいたします。



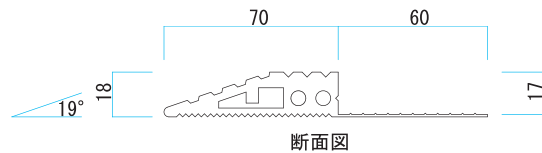
■厚みの確認 (置き敷き設置時)

- 置き敷き設置の場合、段差解消の為、製品仕様でフチ付きタイプがある場合はフチを取り付けて使用して下さい。
- 開き戸の場合、扉にマットが当たらないか確認して下さい。
- 以下の製品には別途置き敷き専用枠を使用する事でフチ付きの対応が可能です。
(ニュースラインマット・アクトラインマット、ハイラインブラシマット)

●置き敷き専用枠



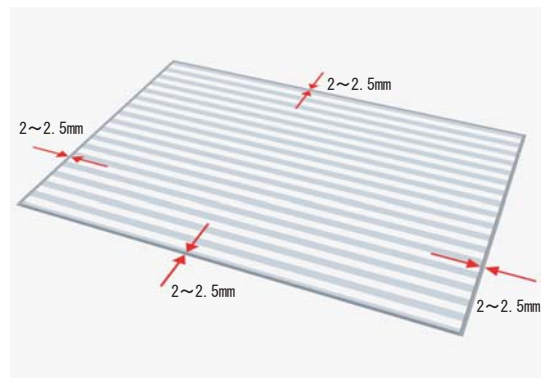
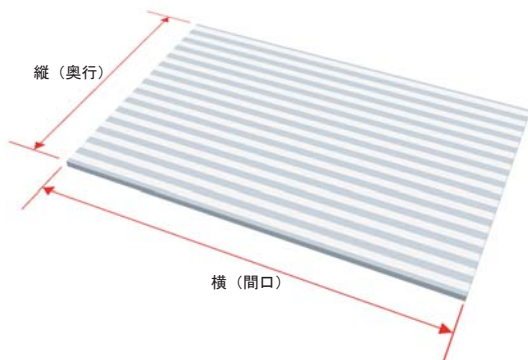
900 x 1800mm内サイズの場合 (使用マット有効サイズ896 x 1796mm)



断面図

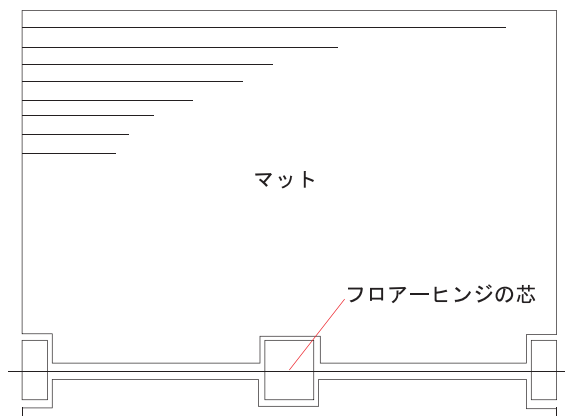
■サイズの確認とラインの向きの確認

- マットには、ライン入りもあります。採寸の基本は縦 (奥行) x 横 (間口) で (間口) の方向にラインが流れます。逆に注文されますと奥行の方向にラインが流れる事になりますので特にご注意下さい。またマットのみのご注文の場合、マットの取り外しを考慮して枠の内寸より4mm~5mm小さくしてマットのサイズをご指定下さい。



■変形形状の対応

- 風除室等に敷込む場合、美観を損ねないようにフローアヒンジの芯で基本的には分割しますが、メンテナンスの関係からマットの重量によって分割を考える必要性もありますので、担当セールスにご相談下さい。
- 多少の変形の場合でも図面をいただければ製作可能ですが、型紙を取っていただければより正確に製作が可能になります。マットの寸法は枠内寸法より4~5mm小さく仕上げます。
- マットのタイプによっては形状の関係上指定いただいたサイズの近似値で製作させていただく場合があります。担当セールスにご相談下さい。

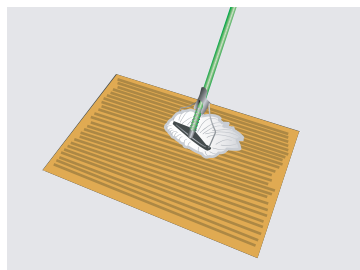
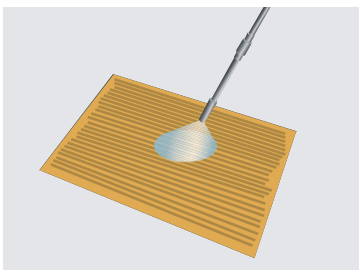
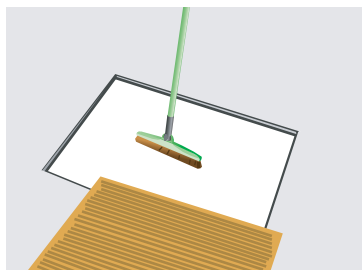
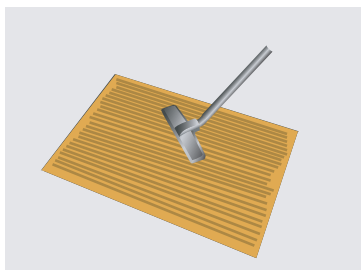


■設置時のお願い

- 樹脂製品の為、直射日光や輻射熱等で高温になる場所での設置に関しては、ご注意ください。
- この製品を傾斜部に設置しないでください。
- この製品は、平坦な場所での小サイズや滑りやすい床面での設置には、製品自身の滑り防止をしてください。
- 置き敷きとして使用される場合は、つまづく恐れがありますので専用枠またはフチ付きをご使用ください。
- 巻き癖がついている場合は、十分巻き癖を取り去ってから施行してください。
- この製品を設置する場合は、設置面にゴミや凹凸がないようにしてください。
- 温度差により多少の伸縮をします。
- 樹脂製品の為、温度変化により伸縮を繰り返し最終的に縮む傾向となります。また設置面が商品の融点を超える場合、融け、波打ちが生じる場合がありますのでご注意ください。
- ロールタイプのマットを接着設置する場合は、材質と設置面に合わせた接着剤をご使用下さい。担当セールスにご相談下さい。

■お手入れの仕方

- 日常のお手入れは、水又は薄めた中性洗剤で洗ってください。
- 洗剤が残らないように洗い流してください。滑って転倒などの原因になります。
- 表面のほこり、ゴミ等は掃除機で吸い取ってください。
- シンナー等の揮発性の高い溶剤がかかりますと、樹脂破壊が起こり、変形の原因となりますのでご注意ください。
- これら製品は、樹脂を使用しておりますので永い間のご使用に関しては、樹脂劣化も考えられますので使用時には再点検をお願いします。
- 廃棄の場合は産業廃棄物扱いになります。



- 日頃のお手入れは掃除機で表面の砂埃を除去してください。また掃除機で吸引できない石やガム等は先のとがった道具をご用意していただき除去をおこなって下さい。
- 定期的なお手入れとしてマットを枠から取り出して下の落ちた埃、砂を除去してください。その時マットの裏側の汚れも除去して下さい。
- 取り出したマットに水で洗浄して下さい。汚れの程度により中性洗剤やデッキブラシ等を使用して両面とも洗浄して下さい。
- 洗浄後はモップ等を使用して良く水を切って下さい。乾燥させる場合は日陰で平置きし、陰干して下さい。乾燥したらマットを元の場所に戻しご使用ください。